

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 5年 11月 20日

事業所名 こばんはうすさくら 江戸川台西教室

保護者等数(児童数) 25(26) 回収数 24 割合 96.9%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	21	2			お庭もあり、室内スペースもゆとりとして広い です。	庭での外遊びがある分、走り回る活動もあるた め、事故や怪我のリスクも高まります。庭での 活動の時間は、特に職員配置を気を付ける 等、気を付けていきたいと思えます。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	19	3		1	当日の子どもの数と職員の人数を報告されて いないため、わからない。	モニタリング時や、面談時に、教室の様子を 見学いただける機会を作りたいと思えます。 定期的な職員の研修会や勉強会等の開 催を続け、職員の教育に力を入れていきます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっ ているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフ ー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	20	3			絵での表示があったり、子供が理解しやすいよ うな工夫がされている。	利用児に合わせた環境作りを心掛けていきま す。わかりやすい絵をつけた表示や、室内の 掲示物等も、工夫していきたいと思えます。 また、利用児の導線を考え、ぶつけやすい場所 や、怪我をしやすいものがないか等、日々安 全を考えた環境作りをしていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。ま た、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	22			1	面談等で行くと、いつもきれいに掃除がされて います。	毎日の清掃、週ごとの清掃等、チェックリストを 用いて、抜けがないよう、清掃をしていきま す。また、コロナやインフルエンザ流行期には、毎 日使ったおもちゃや絵本等の消毒作業もして いきます。
適切 な支 援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児 童発達支援計画が作成されているか	23				児童発達支援管理責任者だけの意見に偏らな いよう、職員からの聞き取りシートを集め、職 員とのカンファレンスを行い、多くの意見を聞き ながら作成している。	
	6 児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」の「児童発 達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支 援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの 支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支 援内容が設定されているか	23					
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	21	1		1	支援計画を職員で共有し、支援を行っている。	
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	22	1			季節のイベントを取り入れてくださったり、自宅 ではなかなかできない事などをプログラムに入 れたい下さり、ありがとうございます。毎日 とても楽しみにしています。	プログラムは、その季節に合わせた活動を心 掛け、食育では、旬のものを取り入れるよう、 工夫をしていきます。イベントや行事等は、確 日に偏りがないように、各曜日の利用児が楽し めるよう、計画していきます。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子ど もと活動する機会があるか	7	6	1	9	まだ利用し始めたばかりでわからない。コロナ やインフルエンザの流行が続き、今の時期は他と の交流がなくて仕方ないと思えます。	以前から、他の幼稚園等と関わる機会を計画 することができていません。近隣でもまだコロ ナやインフルエンザ等の流行が続いている状 況ですので、もう少し状況が改善した後、今後 の課題として検討していきます。
保護 者へ の説 明等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	23				契約の時に丁寧に説明をしていただきました。	契約時に児童発達が書面をお渡ししつつ、説明 をさせていただきます。その後も、利用者負担 額等が変わった時には、書面を作成しなおし、 都度ご説明します。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支 援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発 達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	22					
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング 等)が行われているか	13	3	1	5		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状 況や課題について共通理解ができているか	19	3		1	送迎時にその日の様子を伝えていただき、面 談時にもわかりやすく説明をしていただいで います。	送迎時は時間を取ってのご説明ができていな い、何か追加でお話する必要がある場合は、 職員と連携しつつ、児童発達支援管理責任者 よりご連絡させていただきます。また、モニタ リング時に限らず、ご要望があれば、都度面談 をさせていただきます。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支 援が行われているか	21	1		1	面談の際の助言が大変為になり毎回参考にさ せていただいています。半年に1度面談をして いただくと、その中で子供の様子を知ること ができています。いつも電話で相談に乗って もらってありがとうございます。	半年に一度のモニタリング以外でも、心配事 があった場合等、都度面談をさせていただきます ことも可能です。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者 同士の連携が支援されているか	3	7	10	3	まだ利用し始めたばかりでわからない。コロナ の時代は機会がなくて仕方ないと思う。コロ ナの時代が終わったら開催してもらえるとあり がたい。	保護者会を行っており、好評でしたが、コロナ 禍でできなくなりました。まだ近隣での コロナやインフルエンザ等の流行状況が落ち 着き次第、計画をしたいと思っています。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が 整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相 談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	18	4		1	柔軟に対応していただき、認識の相違のない よう細かく確認をしてくださっています。	送迎時に保護者様からご連絡をいただいた事 項等、職員間の連絡がうまくいかないことが あるため、連絡票に記載する習慣をつけ、職員 間での情報共有ができるよう、気を付けてい きます。
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がな されているか	23				わからないことがあると、何度も説明してくださ り、ありがとうございます。	不明点があれば、いつでもお電話をいただき、 何度でもご説明させていただきます。
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連 絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保 護者に対して発信されているか	17	4	1	1	こばん便りで子供たちの様子を知ることができ ています。	「こばんはうすさくらだより」にて、行事等のプロ グラムを記載しています。「こばん通信」では、 前月の行事等の様子を写真付きでご紹介して います。今後も、様子がわかるような手紙を 発行していきたいと思っています。
19 個人情報の取扱いに十分注意されているか	21	1		1			
非常 時等 の対 応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニ ュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を 想定した訓練が実施されているか	23				避難訓練の様子をお手紙で知ることができ、 安心して通わせています。	避難訓練の様子も、こばん通信等でご紹介 していきたいと思えます。また、遠で防災セン ターに行ったことでもありますので、また計画 したいと思えます。
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な 訓練が行われているか	23				年に数回、定期的に避難訓練をプログラムに 入れて下さっているので安心です。	定期的に避難訓練をプログラムに入れていま す。利用児もスムーズに動けるようになって きているので、引き続き、指導していきたいと思 います。
満足 度	22 子どもは通所を楽しみにしているか	22	1			とても楽しんで通所しています。今日は何をす るのかなとプログラムを確認するのも楽しみの 一つのようなようです。 ようやく慣れ、楽しそうに通えるようになって きました。毎回とても楽しみにしております。	楽しみながら療育に繋がるようなプログラムを 計画していきます。曜日ごとに偏りがなく、よ うやく慣れ、楽しそうに通えるようになって きています。
	23 事業所の支援に満足しているか	20	3			大変満足しています。いつもありがとうございます。 ご支援のおかげで成長を感じることができ 、ありがたい限りです。	今後とも満足いただける支援を続けられるよ う、職員間で連携し、療育をしていきたいと思 っています。

446

43

13

25

85%

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 11 月 20日

事業所名 こぼんはうすさくら 江戸川台西教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		導線がスムーズになるように工夫している。	
	2	職員の配置数は適切であるか	8		障害の重い子がいるときは加配されていたり子どもたちが安全に過ごせるように人数も配置されている。	職員の体調不良や感染症等の時の急な職員不足に対応できるよう、連絡体制を作っている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8		知的、発達に不安のある子が利用しているのでもバリアフリーではないが段差等に気を付けている。 イラストや写真を使って視覚的にも理解出来るようにしている。	利用児の発達に合わせた配慮ができるよう、職員で状況を共有し、日々調整、整備している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8		週に1回おもちゃの消毒をしている。	庭の掃除も定期的に行うようにしていきたい。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8		朝礼、昼礼等で全体に確認し合っている。 定期的ミーティングを行っている。	不参加だった職員にも内容が伝わるよう、連絡ノートで共有する。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		年に1度実施している。	いただいた意見や要望等検討し、業務改善に繋げていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		こぼんはうすさくらホームページで公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8		定期的にこぼんはうすさくら本部の方に来ていただき、評価をしていただいている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		定期的に事例検討会を実施している。 希望者に様々な研修の機会を与えている。	研修会を行う時間の確保が課題。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8		児童発達支援管理責任者が行っている。	定期的なモニタリング以外にも、都度必要があれば、面談をし、支援計画の調整、修正をしていく。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		こぼんはうすさくら本部から提供されたツールを使用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8		児童発達支援管理責任者が行っている。	職員が、支援計画を理解し、有効な療育ができるよう、職員で共有していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8		支援計画を確認しそれぞれ支援している。 支援計画を確認できるよう個別にファイルを作成している。	職員間で共有できるよう、新しい支援計画が出た時は、連絡ノートで伝達し、職員全員が確認できるようにする。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		スポーツウィーク等職員が案を出して行う。	特定の職員のみが行うのではないようにしていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		毎月季節に合わせたプログラムを実施している。	曜日ごとに偏りが出ないよう、バランスの良いプログラムを作っていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8		毎日のプログラムも個別と集団でそれぞれ実施している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		朝礼、昼礼を実施している。 リーダーを中心に役割分担も全員で確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		職員同士1日の療育を振り返り確認している。	全員で行うのが難しいときもあるので、振り返りノートに記録を残し、後日確認してもらうようにしている。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		振り返り内容を記録している。 毎日日報を記入している。	記入ミスのないようにチェックしていく。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8		半年に1回行っている。	定期的なモニタリング以外にも、都度必要があれば、面談をし、支援計画の調整、修正をしていく。	
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		児童発達支援管理責任者が参加して情報共有を行っている。	会議の内容が職員に共有できるよう、記録を取り、保管、共有している。	
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8		関係機関との連携も大切にしている。 児発管を中心に日頃から利用者の情報を交換している。	相談支援専門員によって連携の程度に差がないようにしていく。会議の内容が職員に共有できるよう、記録を取り、保管、共有している。	
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	対象外	対象外	対象外	対象外	

関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	対象外	対象外	対象外	対象外
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		児発管を中心に各所と連携を取って様子を伝え合っている。その情報も職員に共有している。	会議の内容が職員に共有できるよう、記録を取り、保管、共有している。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		就学時に教室での様子を伝えている。	会議の内容が職員に共有できるよう、記録を取り、保管、共有している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8		定期的に相談支援専門員に療育の様子を見てもらっている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	4	コロナ禍のため実施していない。	コロナ禍が落ち着いた後、計画をしたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子どもの子育て会議等積極的に参加している	8		児童発達支援管理責任者が参加している。	児童発達支援管理責任者が参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		送迎時等にお伝えしている。	送迎時はゆっくりとお話する時間が取れないので、連絡が必要な事項があれば、職員からお電話をさせていただいています。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	1	モニタリング等で家庭でも対応等協力していただけよう話している。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		契約時に詳しく伝えている。	変更があった際も説明するようにしていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8		保護者の都合のいい日を聞き参加しやすい形をとっている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		保護者からの要望でその都度対応している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	7	コロナ禍のため中止している。以前は行っていた。	コロナが落ち着いたら計画を再開したい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8		相談があった場合は、職員間で漏れなく伝達をし、児童発達支援管理責任者から連絡をしている。	伝達漏れがないよう、すぐ連絡票に記入。適切な職員が対応できるよう、伝達する。
非常時等の対応	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		毎月「こぼん通信」をお渡ししている。写真入りの手紙を作成している。	写真等、個人情報に注意する。ダブルチェックで確認をしている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		日頃から細かい相談等にも対応している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	6	コロナ禍の中では行っていない。	コロナが落ち着いた頃、計画をしたい。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8		プログラムに組み込み、定期的に訓練を行っている。	保護者にも定期的に行っていることを知ってもらうようにする。こぼん通信等で様子をお伝えする。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		定期的に実施している。	火災、地震、不審者など、各項目、バランスよく訓練を計画する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8		保護者に確認し周知できるようにしていく。	職員が緊急時、スムーズに対応できるよう、各種対応マニュアルを掲示している。
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8		間違いないようにアレルギー対応カードを作成している。	おやつ準備時、提供時のダブルチェックを習慣にしている。	
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		必ず目を通すものとして確認したらサインをしている。すぐに確認できるようにしている。	事例が発生したら、職員間で話し合い、再発防止の意識を高められるようにしていく。	
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		定期的に研修を行っている。		
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8		支援計画に記入し、印をいただくときに説明もしている。安全のためベルト付き椅子を使用する場合はある。(支援計画にも記入している)		